



研究会報告:ひまわり 8/9 号の陸域利用に関する研究会

三重大学 松岡真如 CEReS対応教員 市井和仁

目的 国内外の研究者9名で構成する本研究会は、陸域観測分野における“ひまわり8/9号の利用”を活性化するために、2019年度から継続している取り組みである。研究会の目標は(1)植生を中心とした陸域環境モニタリングのための解析アルゴリズム、プロダクト生成手法、観測データの応用に関する研究を推進し、(2)科研費等の予算計画についての議論を促し、実際の研究提案に結びつけることである。また、(3)本会構成員の研究テーマと各テーマにおける諸問題を整理するとともに、(4)今後の研究開発を効果的に進めることを目指している。

概要 日付と場所: 2021年8月20日(金) オンライン
参加者(敬称略): 市井和仁, 山本雄平(千葉大学) 三浦知昭(ハワイ大学) 山本浩万(産総研) 小林秀樹, 永井 信(JAMSTEC) 小畑建太, 吉岡博貴(愛知県立大学) 松岡真如(三重大学)

プログラム:

- ① 東南アジア熱帯雨林における観測状況 - Himawari8の優位性について - 市井和仁, 山本雄平
- ② 東南アジアにおけるdaily composite処理に関する研究 三浦知昭
- ③ コンステレーションの校正・検証および大気補正処理に関する研究 山本浩万
- ④ BRDFモデルによる影の効果および斜面の影響についての研究 松岡真如
- ⑤ LST algorithmの精度評価に関する研究 - 2018年猛暑の影響評価 - 山本雄平
- ⑥ GOESを用いたPhenology解析(時系列解析)に関する研究 三浦知昭
- ⑦ SOS時期特定に関する問題点について 吉岡博貴, 小畑建太
- ⑧ SOS時期特定に関するこれまでの結果について 小林秀樹, 永井 信

スライドの抜粋

丸数字はプログラムと対応

関連事項

- 参加者による関連するテーマの科研費獲得状況(代表者)
 - 若手研究: 山本(雄) 2020~22
 - 基盤研究C: 小畑 2020~23, 山本(浩) 2021~23, 松岡 2021~23
 - 挑戦的研究開拓: 吉岡・市井・松岡・小畑 2019~24
 - 国際共同研究強化B: 市井・山本(雄)・吉岡・小畑・松岡 2020~22
- IPCC AR6 WG-1 報告書による論文の引用 三浦・永井・市井・吉岡
- 国際学会セッション提案
 - JpGU 2021: Terrestrial Monitoring using new-generation geostationary satellites (Yamamoto, Miura, Ichii)
 - AOGS 2021: Earth Observation from a New Generation of Geostationary Satellites. (Nemani, Ichii, Lee, Park, Ryu)
 - AOGS 2022: Earth Monitoring from Operational Geostationary Satellite (Wang, Ichii, Miura)

- 国際雑誌 特集号編集者 (吉岡, 三浦, 市井 〆切: 2022年12月末)
 - MDPI Remote Sensing: Hypertemporal Land Remote Sensing with Third-Generation Geostationary Earth Orbit (GEO) Satellites
- Nature Plantsへの論文掲載 (市井)
 - Xiao, J. et al. Emerging satellite observations for diurnal cycling of ecosystem processes. Nat. Plants 7, 877-887 (2021).

まとめ

- Himawari-8/AHIデータを提供/解析しているCEReSの役割は大きい ⇒ その影響力は今後も一層高まると予想
- CEReSがHimawariの陸域研究のコミュニティをリードすることに期待 ⇒ 組織的な取り組みによる国際的な競争力の向上

謝辞: 本研究会は、2021年度千葉大学環境リモートセンシング研究センター共同利用研究の支援を受けて開催されました。